

# IBD×NST レター

臨時号

2015年12月発行



## なぜ、臨時号が発行されたの？

先日、味の素製薬さん主催のIBD講演会が開催されました。内容は栄養療法がメインの御話で、大変興味深く、皆さんにもお伝えするべく、臨時号を発行いたしました。



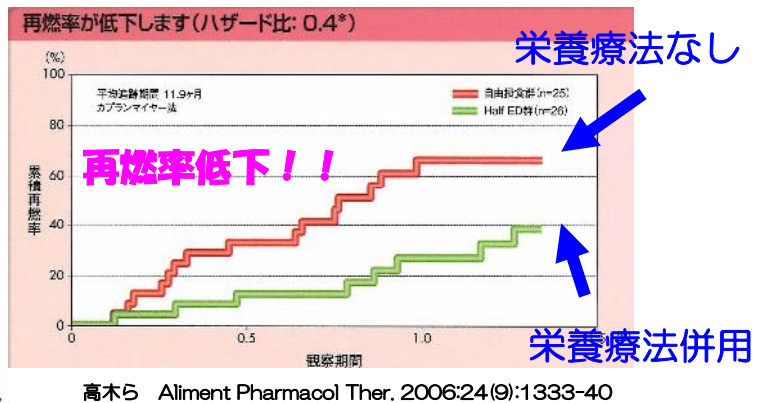
## 栄養療法は本当に大事ななの？

日本では、クローン病治療の第1選択枝は栄養療法ですが、欧米では、栄養療法よりも投薬治療が主に用いられています。日本でも、2002年よりIBD患者に対して生物学的製剤（レミケード）が使われるようになり、栄養療法の重要性が薄まりつつありました。

しかし今、欧米でも栄養療法が見直されようとしています。栄養療法は病気の寛解維持に有効です。生物学的製剤単独の治療よりも、生物学的製剤と栄養療法を併用することで3倍寛解維持が可能とされています。生物学的製剤（レミケード・ヒュミラ）の効果を安全に高めるには、栄養療法との併用が有用ということになります。特に小腸の病変を有する患者には有用だそうです。

### 栄養療法とは・・・

成分栄養療法とも言い、腸に負担の少ないエレンタールを食事療法（低脂肪・低残渣食）と組み合わせることで、腸に炎症を起こさせない様にする治療法。



## 患者さんのために私たちができることは？

難病であると確定診断されたIBD患者さんは、これからの生活にたくさんの不安を抱えています。若くして発症する分、就職・結婚・出産など、人生のおおきなイベントを病気と共に迎えないければなりません。その中で、栄養療法の受入れ・継続も課題のひとつです。しかし、実際に栄養療法を導入・継続できている患者さんは多くありません。どの施設においても、患者さんに栄養療法を継続してもらうのが難しいと感じているようです。

私たち医療スタッフは、患者さんの情報を共有し、患者さんとコミュニケーションをとり、患者さんの立場になって考える。そして、なぜ栄養療法が大切かを伝え、継続できるようにサポートしていくことが大切です。それが患者さんのQOLの向上にもつながっていきます。

